

The background features a light gray gradient with decorative elements. At the top and bottom, there are stylized leaf branches with small white dots and starburst effects. A dark gray silhouette of a bird is flying in the upper left quadrant.

平成31年度

入学試験問題

講評と対策

四天王寺高等学校

国語

問題内容

- 一 「脳は、なぜあなたをだますのか—知覚心理学入門」妹尾武治(ちくま新書)
- 二 「氷壁」井上靖(新潮文庫)
- 三 「大鏡」より(新編日本古典文学全集34)

配点

42点

38点

20点

出題の意図

- 「知覚心理学」の立場から、「人間の自由意思」は「錯覚」だというユニークな知見を語る文章。予見や常識にとらわれず、具体例や実験結果などを通じて語られる筆者の意見・意図を正しく読み取る力を問う。
- 犠牲者1名を出した登山事故をめぐる様々な思惑と、主人公の心理の動きを語る文章。しぐさや表情の描写からも登場人物の心情を確実に読み取る力を問う。
- 上京途中起きた不思議な出来事を語る文章。何が起こり、主人公はどのように行動したのかを順序だてて捉える力を問う。

各問題講評

【書き取り】

一「巧み」(正答率80%)二「墜落」「観点」(正答率70%)の誤答は、部分的に形が同じ「朽」「遂」「墮」「隋」「勸」「歛」が多かった。表意文字である漢字をただ形で覚えているだけで、熟語の成り立ちや文脈を意識できていないものと思われる。

【ことばの意味】

一 問八b「取捨選択」(正答率75%)の誤答は「捨」が多く、書き取り同様に、漢字の意味への注意が不足している。二 問二b「息をのんだ」(60%)の誤答は「ウ 口をつぐんだ」が多かった。文脈からこの慣用表現の表す心情を考える必要がある。ただ表面的な行動として近いものを選んだ誤答ではないかと思われる。

【一】評論

問二 具体例を示して問題提起につなげる筆者の表現の意図を読みとる問題。(1)具体例の読み取りは正答率はほぼ100%だったが、その意図を記述説明する(2)は正答率50%。助詞「が」「は」の使い方が不適切なものがかかりあった。主語・述語がきちんと対応した簡潔な文を書く力をつける必要がある。

問三 第6-7段落の読解。正答率5%。「人間」を特別視しないのが「進化論」の立場であること、またそのような「進化論」がそれ以前のどのような考えと異なっていたのかを本文から読み取れば正答は可能であったはず。

問四 問二同様、実験を示す作者の意図を読みとり、適当な箇所を抜き出す問題。正答率90%。

問五 傍線部の説明問題。正答率50%。「なぜ「驚愕」せねばならないのか」ということを説明するには、実験から得られる「結論」と一般的な概念との「ギャップ」を示す必要があるが、「無意識に行動を選択している」あるいは「意識を持つという思い込みは誤りだった」ということの方だけを繰り返す内容になっている解答が多かった。

問六 理由を説明する問題。正答率65%。(1)で言い換えを解答したこと(正答率85%)に引きずられたのか、「エピソード記憶がなぜ生存を有利にするのか」という理由ではなく、「エピソード記憶」の性質の説明となってしまう誤答が多かった。

問七 文脈に沿った内容を10字以内で作文して空欄補充する問題。正答率55%。2か所の空欄はともに「行動」にかかっていく部分なのに、「赤いキノコは危険だ。」など、「行動」で答えていない誤答が多かった。

【二】小説

問四 比喩的表現の意味を問う問題。正答率70%。「一人になっていた」は心情の比喩的表現として捉えられていない誤答が多かった。

問五 相手役の人物の心情読解問題。正答率60%。

問六 引用されている新聞記事の内容を要約的に「見出し」として問う問題。正答率60%。新聞記事の部分では何が強調されているのかを読みとる必要がある。本文では「ここで問題になることは…切れたのであるかどうか」ということである。「きれるということが果たしてありうるものかどうか」と反復・強調されている。

問七 傍線部の説明文の空欄補充。適語を抜き出して解答するYは正答

率はほぼ100%。10字以内で記述するXは正答率80%。与えられた説明文の空欄に続く「～に沈む」という表現を考慮に入れていない解答が多かった。

問八 新聞記事をめぐる二人の登場人物の認識と心情のずれをよみとる問題。正答率50%。微妙な認識の差異をとらえきれないものと思われる。

問九 主人公の心情を読みとる問題。正答率90%。

【三】古文

問一 物語冒頭の状況をとらえる問題。正答率90%。誤答は字数指示を読んでいないことによるものと思われる。

問二 「さるべきこともなし」という思いの理由を考える問題。正答率50%。誤答は近くにある「神の祟り」という表現を用いた「ウ」が多かった。直前の「に」や傍線部が「～こともなし」と打消表現であることを捉えきれないことによるものと思われる。

問三 人称を問う問題。正答率60%。b「われ」はここでは二人称。

問四 問三b「われ」をふまえて、人物の特徴をとらえる問題。正答率60%。

問五 内容読解問題。正答率40%。誤答はウやエが多かった。本文6～7行目の「おのれがもしもなきがあしければ」の内容がとらえられれば正答可能だが、すべてひらがな表記であり、強意「しも」が入っていることで読み取りにくかったか。

問六 文脈に合う語を選ぶ問題。正答率60%。誤答はアイエどれも多かった。状況に応じた選択肢の「風」の表現そのものの違いがわからなかったか。

問七 内容読解問題。正答率40%。傍線部⑤の時点で、まだ「神は怒っている」「祟りは続いている」と読みとっている解答が多かった。また「法」を「法律」ととらえている解答も多かった。

問八 物語の内容を旅の行程として整理して捉える問題。正答率50%。「上る」が「上京」という現代語と結びつき「都へ向かうこと」と理解できれば正答可能。

次年度入試 アドバイス

読みとった内容を記述して答える力。今後の高校生活でも、社会生活でも、常に問われる力です。まずは注意深く本文を読むこと。本文の表現を正しく理解すること。そしてその内容を、主語と述語のきちんと対応した文で簡潔に書き表すこと。それを繰り返し訓練してください。

まずは、気に入った文章を正確に書き写すことから始めるのもよいかもしれません。そのときに、「主語」、それが直接つながっていく「述語」、それぞれにかかって、よりくわしく形容している「連体修飾語」「連用修飾語」の部分を意識してみてください。どんな複雑な構造の文も、基本はその部分の組み合わせで出来上がっています。それが実感できるようになれば、評論・小説・古文のどの分野についても、「読解力」も「記述力」も一挙に上がります。

数学

問題内容

配点

出題の意図

1. 計算問題	20点	式の計算、因数分解などの基本事項の確認。
2. 方程式・文章題	16点	題意を理解して、正確に解くことができるか。
3. 確率	17点	工夫して能率よく解けるか。
4. 平面図形	13点	図形を様々な角度からみることができるか。
5. 2次関数と直線	16点	2次関数のグラフと面積を絡めて総合力を見る。
6. 空間図形	18点	空間図形のイメージを正確に理解しているか問う。

各問題講評

全体として、約60%程度のでき具合であった。

- 60%の正答率であったが、全問完答したい問題である。(3)では、「組み合わせをつくる」ことで因数分解できる。(4)は、偶数+奇数=奇数であることと、偶数の素数は2だけであることに気づくことが大切である。 $x=2$ と求まることにより y の値も求まる。
- 55%の正答率であった。[1]は因数分解すべきところを解の公式を使っている受験生がいた。[2]は落ち着いて題意を表などに書き留めるとよい。
- 65%の正答率であった。(1)、(2)はよくできていたが、(3)、(4)は50%、30%であった。(1)、(2)は8通りすべてを書き出すとよい。(3)、(4)は(1)、(2)の結果を用いると時間が節約できる。(3)は(1)の結果に追加した2枚のおはじきの合計が0になる場合を考慮すればよい。(4)は得点が10点以上になる場合は多くあるので、9以下である確率を求め、1から引く。
- 60%の正答率であった。(1)は正答率が高かったが、(2)、(3)の正答率はともに50%であった。(2)は相似の面積比を考えればよい。(3)では、 $AD=HD=PD$ に気づくことが大切。(1)、(2)では、比を逆に書いている解答を見かけた。
- 65%の正答率であった。(1)、(2)はよくできていた。(3)、(4)は等積変形の問題で本校ではよく出題される。 $\triangle OAD$ の面積:台形 $OABC$ の面積=1:5になっている。
- 55%の正答率であった。(1)はよくできていた。また、

(2)の①のヒントにもなっている。(2)の②は $\triangle EPQ$ が二等辺三角形であることに気づくことが大切。 EQ は三平方の定理で求まる。三角すいの体積を求め、底面を $\triangle EPQ$ と見ると求める距離が三角すいの高さになる。本校では類出の考え方である。

次年度入試 アドバイス

例年、中学1年から3年までの全分野よりかたよりにくく出題し、「正確な計算力を身につけているか、基礎事項を理解しているか、題意を読み取り論理的に考えていくことができるか。」などをみる問題を作成している。正確な計算力と柔軟な思考力が試されるので、すばやく計算する練習と、すぐにあきらめずじっくりと考える練習を2つの柱として準備をしてほしい。三角形の相似、合同、面積、文章から連立方程式や2次方程式を立てて解く問題、立体図形、2次関数、場合の数、確率などは、比較的よく出題されているので、特に力を入れて勉強しておこう。

ただし、難問を練習する必要はなく、標準問題を中心にしたような基本的事項が使われているのかを確かめながら勉強しておくことが最も有効な対策である。その際、ケアレスミスに注意してほしい。「符号のミス」、「比を書くときに、左右を間違っている」、「もう因数分解できないか」などに気をつけるよう心がけよう。

最後に、3年分くらい過去の問題は必ず解いておこう。その際時間配分に十分注意し、時間不足で解ける問題ができなかったということのないようにしよう。配点はどの問題もほぼ平等なので、比較的易しい各大問の(1)、(2)を確実に正解することが大切である。

英語

問題内容

配点

出題の意図

I 長文 (エッセイ)	25点	英文読解と内容把握力をみる
II 長文 (エッセイ)	24点	英文読解と内容把握力をみる
III 会話文	14点	対話形式の文の読解力をみる
IV 英作文	10点	英文の構成力をみる
V 整序	6点	英文の構成力をみる
VI 2文同意	10点	単語力と表現力をみる
VII 語彙	6点	単語力と表現力をみる
VIII 発音	5点	音声の定着度をみる

各問題講評

- [I] インド、ムンバイでの弁当配達業に関するエッセイ。問1は不定冠詞を伴った名詞句で新たな話題が出された場合は、それに続く部分で具体的に述べられるという文章構成の基本を理解出来ていれば容易な問題。問2では、「時間がかかる」をit takesで表す基本的なもの。正答率は全体として5割を下回り、基礎的文法・語法力、読解力の不足が目立った。
- [II] 飼い犬を事故でなくした主人公が立ち直るまでのお話。問3の、feelの目的にあたるthat節がthatの省略により読み取れてない解答が目立ったが、代わりにso・that構文はとてもよく出来ていた。問6では、品詞を考えられていない答えも多かった。しかしながら、物語ということもあり、全体的に[I]と比べると正答率が高かった。
- [III] 歴史の宿題の資料を探す生徒と、図書館司書の対話。正答率は高めで、対話問題の対策はある程度出来ていると思われる。ただ、コンマ後に大文字で始める、スペルミスなど残念なミスがあり、非常にもったいない。
- [IV] 状況を与えられ、その場面にふさわしい英文を作成する。受験生によって点数に開きが出ていたが、全体の正答率は8割弱で、高かった。
- [V] 1語補充しての整序問題。正答率は60%付近。
- [VI] 2文が同意になるように空所を補充する問題。文法

問題はいずれもよく出来ていた。

- [VII] 発音が同じだが異なる単語を答える形式であるにも関わらず、発音が違ったり問題文の意図を読み取れてない生徒がいた。

- [VIII] よく出来ていた。

次年度入試 アドバイス

長文問題ではボリュームがあるものを限られた時間で把握する力が要求されます。日頃から、同じレベルで様々な分野の英文に触れるように心がけましょう。文法・語法問題では基本的なものが出題されることが多いので、中学1～3年の教科書で学習する文法をしっかり復習し、身につけるようにしてください。教科書を何度も音読し、発音、単語の意味を正確に覚え、正しい綴りもできるようにしましょう。過去の問題も解いておくといいでしょ。

理科

問題内容

配点

出題の意図

1 化合と分解	11点	化学反応式を正確に書けるか、また条件が変わったときにグラフを自分で描けるかを問うた。
2 化学変化と物質の性質	8点	水溶液の化学変化から物質の性質を利用して未知の物質を推定する。
3 電池の働き方	10点	電圧計の読み方と電極板による起電力の違いを推定する。
4 バネと力のつり合い	11点	バネにはたらく力とのびの関係が理解できているか、また、3力のつり合いが正しく理解できているかを問うた。
5 光の反射・屈折	11点	光の屈折が理解できているかどうか、屈折によりものがどのように見えるかを問うた。さらに光の逆進性から全反射を見抜けるかを問うた。
6 被子植物の花のつくりと生殖	25点	植物の生殖器官である花がたどった進化や花粉媒介者の昆虫との関わりを考えさせる。さらに花の各部位の分化に遺伝子が働いていることを考えさせる。
7 天気と岩石	25点	気象分野の基礎知識を問い、理解力と応用力としてデータをよみとる力を問うた。

各問題講評

- 70%位の正解率であった。表やグラフを正しく読み、描けるようにしてほしいと思いつ題した。問題文をよく読んでいない答案が見受けられた。
- 80%位の正解率であった。物質の性質や化学変化の種類について正確な知識を必要とする。物質の名称のみでなく、化学式も正しく表せるようにしてほしい。
- 10点中6.5点くらいであった。極板の違いにより、同じレモン電池でも正極・負極が変わり、起電力が異なることを文章から読み取り、文章が正しいかどうかを考えることが難しかったようである。
- フックの法則と力のつり合いの問題では、問われているのがバネの長さなのか、のびの長さなのか注意することが大切である。(4)(5)は3力のつりあいで3平方の定理を使うが、(4)は手で加えた力を問うていることに注意する。(5)はつり合いの矢印を図示してaとcのおもりの大小関係をしっかりと把握したい。
- 光の屈折に関する現象を扱った問題。(3)は、光が屈折することで人間の目にどのように映るかを理解することが大切。光線の作図も大切であるが、それがどう見えるかも知っておきたい。(5)は、光の逆進性から図2の面に達した光線の入射角が 45° (臨界角)を超えていることがわかる。知識を問う問題はよくできていた。
- (1)の穴埋め問題はよくできていた。リード文をしっかりと理解し、読みとおせたものと思われる。ただ、「前葉体」の語は、かける・かけないがはっきりわかれた。(5)(6)の正解率が低かったことから実験に際して仮説をたて、結果を予想し、分析・考察する力が不足していると思われる。
- 理科では現象の解釈に分野を超えた理解と数学の力が

必要になるので、知識を暗記だけに頼るのではなく、どうしてそうなるかを考え理解を深めること、計算力を高めることを意識して勉強してほしい。

次年度入試 アドバイス

以下に理科の対策を列挙しておくので、しっかり準備しよう。

☆中学の理科で学ぶ重要な「用語」や「化学式」、「単位」などを正確に理解すること。

☆特に本校では実験や観察に関する問いも多いので、教科書で扱われている実験については、実験操作の意味もしっかり理解し、積極的に実験を体験すること。またデータの処理に関し、グラフの作成や読み取り、計算力をつける学習を大切にすること。

実験結果や観察結果から考察する問題では、必ずそのヒントが問題中に含まれている。しっかり読み解くように訓練する必要がある。

☆生活の中で体験する身近な現象などに、日頃から関心をもつよう心がけること。

☆過去の問題を解いて「問題形式」や「解答方法」などに慣れるとともに、問題文をしっかりと読み取るトレーニングをすること。

☆記述題では、理科の用語を的確に用いるとともに、わかりやすい表現が出来るように心がけること。自分で文章を書いてみるのが大切である。また、誤字脱字にも注意が必要である。

社会

問題内容

配点

出題の意図

1 地理分野 (ユーラシア大陸の自然)	16点	ユーラシア大陸全体の気候・地形と首都名など基礎的な知識と特色を問うた。
2 地理分野 (関東地方の地誌)	14点	関東地方の地誌について、経済面の特色を中心に、基本的な内容を問うた。
3 歴史分野 (テーマ史)	20点	飛鳥時代から第二次世界大戦直後までの法制史を題材とし、関連する政治・文化・外交・社会について基本的な知識を問うた。
4 歴史分野(世界史) (第一次世界大戦～第二次世界大戦)	12点	パリ講和会議から100年を迎え、戦争の世紀ともいわれる20世紀前半に関する政治・経済を中心に問うた。
5 歴史分野(世界史) (16世紀～19世紀)	8点	香港・マカオを訪れた2人の会話から、16世紀から19世紀の世界の歴史に関して問うた。
6 公民分野(政治・経済の問題)	20点	天皇、環境問題、社会保障制度、労働と女性など、テーマ別に公民分野の基本的な知識を問うた。
7 公民分野(時事問題)	10点	2018年の日本や世界での出来事に関する時事に関して問うた。

各問題講評(具体的に)

- 地名や気候に関する問題は正答率が高かった。①問4や②問5のような統計データを読み取る問題は正答率が下がった。数字を読み取る能力で得点差が出た印象がある。
- 比較的正解率は高かったが、地名に関する問題は正答率が低かった。問4問6のような写真や統計などを読み取って、知っている知識と結びつけることができたかが、得点差につながっている。
- どの問題も正答率は高かった。その中でも問6(1)「大日本帝国憲法発布時の内閣総理大臣」についての正答率が低く、初代内閣総理大臣である伊藤博文とする誤答(正しくは黒田清隆)がとても多かった。
- 近世から近現代を中心に出題したが、特に大問4の間1～問3(第一次世界大戦後のベルサイユ体制下の世界に関する設問)の正答率が低かった。
- 全体的によく出来ていたが、問4問6のような年代整理問題の正答率がやや低かった。
- 全体的によく出来ていたが、問3の正答率がやや低かった。

次年度入試 アドバイス

1・2【地理分野】

地名は地図を用いてその場所もしっかりと確認しておくこと。知っているはずの地理的知識も統計データなどから読み取れることができるかが大切です。数字や用語を「暗記する」のではなく「考える」のだという姿勢で学習に取り組んでください。

3・4・5【歴史分野 日本史・世界史】

歴史はいわゆる「暗記科目」ではありません。歴史用語の単純な暗記ではなく、教科書をしっかりと読み込んで、内容を理解することを通して覚えるようにしましょう。その中で図版や写真・史料には必ず目を通すようにしてください。また、過去問にも必ず取り組んでください。

6・7【公民分野】

政治的分野も経済的分野も教科書の本文だけでなく、注釈・欄外・表等も含めてしっかり学習しておいて下さい。時事問題に関しては普段からテレビのニュースや新聞などに関心を持って、学習を深めて欲しい。その際、日本と世界の両方の出来事に関心を持って欲しい。

【全般】

地理分野・歴史分野・公民分野を全体的にバランス良く学習することが求められる。普段から教科書だけではなく、地図帳・資料集・新聞なども活用して、幅広い知識を身につけるような学習をして欲しい。